

麻疹情報

国立感染症研究所がまとめた感染症週報(IDWR 2007年第17週号「注目すべき感染症」)によれば、麻疹の流行は、東京都、埼玉県、千葉県等の関東地方が中心であるものの、麻疹の発生は全国的に広がっています。

麻疹(成人麻疹を除く)の流行状況については、全国で約3000か所、横浜市では84か所の小児科診療を行っている指定届出医療機関(小児科定点)からの報告により、把握しています。

成人麻疹(15歳以上)の流行状況については、全国で約450か所、横浜市では3か所の基幹定点(内科と小児科を持つ300床以上の病院)からの報告により把握しています。

衛生研究所では、小児科定点および基幹定点からの患者報告を、週単位で集計し、ホームページ(横浜市感染症発生動向調査週報一覧 等で、公表しています。

(http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/topic_inf/kansen_khama.html)

また、速報として横浜市感染症臨時情報【麻疹(はしか)の流行について】を提供しています(http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection_inf/2007nen/measles-sokuhou.pdf)。

<麻疹について>

麻疹は空気感染(飛沫核感染)、飛沫感染、接触感染と様々な感染経路を示す疾患で、その感染力は極めて強力です。免疫のない人が感染した場合、ほぼ全員が発病します。

感染から発病までの潜伏期間は、10日前後です(10~12日)。

また、発疹が出現する4日前くらいから、他の人にうつります。肺炎、中耳炎、咽頭炎、脳炎などを合併することもあり、ワクチンによる予防が最も重要です。学校保健法での出席停止の基準は、解熱後3日を経過するまでとなっています。

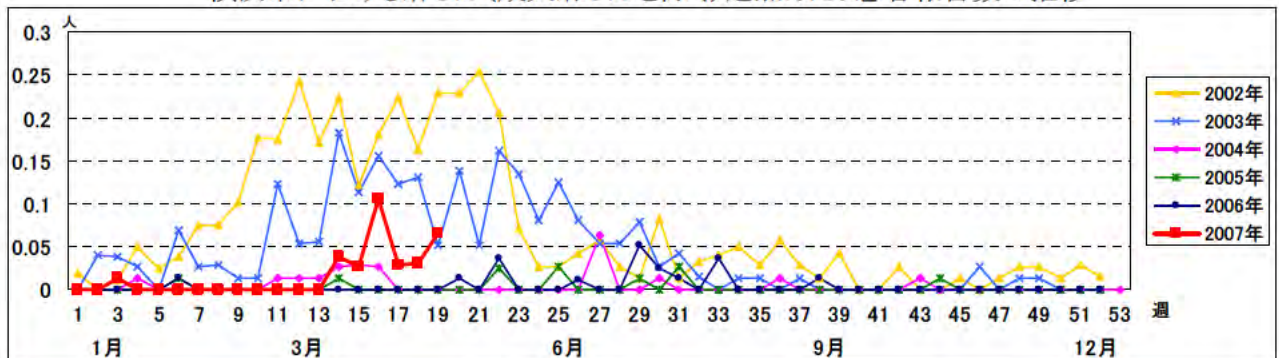
<修飾麻疹について>

不完全な免疫を持ち、感染した場合、典型的でない軽症の麻疹を発症することがあります。

麻疹ワクチン接種後数年を経過し抗体が低下したり、1歳前で母親由来の抗体が残っている場合で、潜伏期が14~20日、前駆期の症状が軽く、発疹が急速に出現、経過も短く、色素沈着が弱い等、麻疹と診断するのが難しい場合もありますが、麻疹としての伝染力がありますので、注意が必要です。

定点あたり患者報告数の推移をグラフに示しました。

横浜市における麻疹(成人麻疹を除く)定点あたり患者報告数の推移



2007年 全国と関東における週別麻疹患者報告数

週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
全国	8	11	13	9	7	18	7	22	5	8	10	6	25	30	34	73	107	87	214
茨城県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	3	2	5	1	3
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	4	8	4	6
群馬県	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	2	1	3
埼玉県	4	4	4	3	3	8	2	11	2	5	1	-	11	12	9	14	16	24	35
千葉県	1	1	3	2	-	-	1	3	-	-	2	-	1	-	1	11	16	9	56
東京都	-	-	3	-	-	1	-	1	-	2	2	4	9	7	10	14	11	14	31
神奈川県	1	-	1	1	-	1	-	1	-	-	1	-	1	4	3	10	6	4	22
横浜(再掲)	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	2	8	2	2	5
川崎(再掲)	1	-	-	-	-	1	-	1	-	-	1	-	1	1	-	-	-	-	4
圏域(再掲)	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	4	2	13

2007年 全国と関東における週別成人麻疹患者報告数

週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
全国	1	1	3	1	2	1	1	1	2	-	9	9	13	5	15	41	25	24	53
茨城県	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	2	-	1	-	-	-	1
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2	4	-	-
埼玉県	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	-	2	5	-	-	4
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	4
東京都	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	5	3	8	2	7	12	15	18	19
神奈川県	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	1	2	4	5	2	1	2
横浜(再掲)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	2	1	-	2
川崎(再掲)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	-	-	2	3	1	1	-
県域(再掲)	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	-	-	-	-

今回の流行において、10代、20代の患者発生を中心とした成人麻疹の報告数は、2001年の流行時の水準に達しつつあり、相当数の成人麻疹例が発生しているものと思われます。

10代、20代等の年長者の行動範囲は広く、また感染力は強いものの発熱やカタル症状が主で発しんのみられないカタル期においては、麻疹と自覚しないままに活動を継続してより広範囲に感染を広げてしまう可能性が高いものと考えられます。

既に高校や大学における集団感染例が複数例発生していますが、公共交通機関内や施設、レストラン等における不特定多数の者への麻疹ウイルスの感染伝播による、感染源不明の麻疹発生例も相当数存在しているものと推測されます。

成人麻疹の報告医療機関である基幹定点は450か所と少なく、実際の患者発生数を正確に把握することは残念ながら不可能ですが、そのような中でも、麻疹流行の兆しを確実に探知するために、沖縄、千葉、愛知、三重、石川、和歌山、群馬、宮崎等では、麻疹全数把握による発生動向調査を行っています。

2003年5～6月にかけて石川県(K大学)において、麻疹の集団発生があり、大学および保健所の関係者からなる麻疹感染拡大防止対策で、教職員を含め約6,000人に麻疹ワクチン集団接種を行いました(病原微生物検出情報 IASR Vol.25 No.3(No.289) March 2004. <http://idsc.nih.go.jp/iasr/25/289/dj2896.html>)。

また、2007年4～5月にかけて東京都(S大学)では、19日間の全校休校と未罹患の学生へのワクチン接種、学生への生活上の徹底事項等を行い、麻疹感染防止に取り組んでいます。

< 集団感染の発生を防ぐために >

- ・ 学校、大学等の集団における発生に備えて、学生や職員の、麻疹ワクチン接種歴や麻疹既往歴の確認及び未接種者、未罹患患者へのワクチン接種を勧奨する。
- ・ 迅速な対応として、1例でも発生した場合は、校医や福祉保健センターに相談して、対策を検討する。
- ・ 患者発生時には、全学生や全職員に毎朝検温を実施し、37.5度以上の場合は、外出を控えるように指導し、有熱者や有症者への注意の徹底を計る。
- ・ 感染拡大防止のため、必要に応じて、休校(潜伏期間も考慮して、休校は最低10日間)やワクチンの接種を検討する。

現在の日本のように麻疹の流行が減少し、感染する機会が少なくなってくるとブースター効果が期待できず、予防接種後長い時間が経過すると免疫が低下し、ワクチンを接種したにもかかわらず、麻疹に罹患する例が報告されるようになりました。そのため、1回の接種で免疫がつかない(数%)場合を防いだり、免疫を強化するために、平成18年度から2回接種となりました。

今後、麻疹の発生動向に対してはより一層の注意深い観察が必要です。また、集団感染の発生を防ぐためには、流行阻止に向けた迅速で効果的な対策の実施が望まれます。

なお、国立感染症研究所 感染症情報センターでは、麻疹発生データベースを運用しています(<http://idsc.nih.go.jp/disease/measles//25/289/dj2896.html>)。

< 参考資料 >

- ・ 麻疹(はしか)について (横浜市衛生研究所)
(http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection_inf/measle1.htm)
- ・ 麻疹 Q&A (東京都健康安全研究センター)
(<http://idsc.tokyo-eiken.go.jp/measles/mashin/mashinqanda.html>)
- ・ 疾患別情報 麻疹 (国立感染症研究所)
(<http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/index.html>)

【 感染症・疫学情報課 】